

令和 3 年度 学校自己評価システムシート（滑川町立福田小学校）

目指す学校像	志を立て失敗を恐れず挑戦する気概を育む学校～師弟敬愛の楽園～
--------	--------------------------------

重 点 目 標	with coronaを踏まえた学校経営の推進 1 学力の向上、体力の向上 2 豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立 3 開かれた学校づくり（信頼される学校づくり） 4 教育の質の向上を図る働き方改革
---------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校
評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏ま
えて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	3名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	○授業規律や学習意欲・態度については概ね良好である。 ○県学調では、5年生が県平均程度であり6年生は2ポイント程度上回っている。 ●感染症拡大を見据え「学びを止めない」ための準備をする。 ●各種学力テストの結果分析に基づく授業改善サイクルの確立を図る。 ●体力に課題があり、運動好きの子供を育てることが必要である。	学力の向上 体力の向上	○感染症対策に万全を期して、教育活動を推進する。 ○オンライン授業実施のための教職員のスキルアップを図る。 ○各種学力テストの結果分析に基づく授業改善システムを構築する。 ○主体的対話的で深い学びを目指した授業づくりを推進する。 ○特性に触れた喜びを味わわせる体育授業を創造する。	○「学びを止めない」を達成したか。 ○学校評価に係る保護者対象アンケートで、「学力向上」に関し9割以上が好意的な評価したか。 ○体育授業改善に向けた取り組みを共有したか。	○教育課程を計画通り実施することができた。 ○感染拡大防止のための出席停止児童、不登校児童のオンライン授業を一部実施した。 ○学校課題研究の推進により、学力向上をめざし、タブレットを活用した授業改善、授業づくりを実施した。 ○運動好きの子供を育てることを目指した体育授業を実施した。 ○学力向上に関するアンケート3項目で平均92.1%の好意的評価を得た。	B	●「主体的対話的で深い学び」を目指した授業改善サイクルの確立が必要である。学校課題研究の推進を通して実現する。 ●体力に課題がある。運動好きの子供の育成を目指した授業づくり、体育的活動の実施を通して体力向上を実現する。
2	○思いやりの心が育っている。また、靴揃え等「規律ある態度」の育成で成果を得ている。 ●やや受け身の姿勢が見受けられる。 ●「自己有用感」の育成、傾聴の指導を推進する。 ●ケース会議等関係諸機関の連携を一層強化する。	豊かな心の育成 基本的な生活習慣の確立	○人事評価制度を活用し、「自己有用感、傾聴」の指導の連鎖を実現する。 ○「自立、貢献」をキーワードにした積極的な生徒指導を推進する。 ○実践意欲、実践的態度を育む道德教育を推進する。 ○恐れに起因するいじめ、差別を許さない教育(人権教育)を推進する。 ○教育委員会、健康福祉課、保健センター、嵐山学園、民生委員等関係諸機関との連携を強化する。	○児童、保護者対象のアンケートで、基本的な生活習慣の確立に関し9割以上が好意的に評価したか。 ○学校自己評価で、児童像の育成に関して全職員が成果を認めたか。 ○関係諸機関との連携により、課題を解決したか。	○「自己有用感」「傾聴」をキーワードとした指導・支援が広がった。 ○基本的な生活習慣の確立に係るアンケートで、児童93.1%、保護者86.9%の好意的評価を得た。身の回りの整理整頓等に課題が残る。 ○職員対象のアンケートで、児童像4項目、豊かな心の育成5項目で平均3.4ポイント(満点4)の回答を得た。 ○スクールカウンセラー、嵐山学園との連携で成果を得た。	B	●「自己有用感」「傾聴」の指導・支援は、学力の向上にとっても重要である。今後も、教職員のベクトルを揃えて取り組む。 ●身の回りの整理整頓等に課題がある。本年度の方策を継続して実施する。また、保護者との連携を強化する。 ●関係諸機関との連携で成果を得た。今後とも、新たな課題に機敏に対応していく。
3	○「開かれた学校」について好意的な評価を得ている。 ●学校運営について理解を求め、保護者、地域社会、関係諸機関からの応援をいただく。	開かれた学校づくり (信頼される学校づくり)	○苦情を意見に読み替えて組織として対応していくことを確認する。 ○コロナ禍におけるリスクコミュニケーションを意識し、保護者や地域住民と合意形成を図る。 ○「足を運ぶ」「すばやい対応が最大の誠意」を徹底する。 ○学校の方針を丁寧に説明する。 ○保護者や地域住民の声を丁寧に聞き、学校経営に反映させる。 ○学校応援団の拡大を図り、学校地域協働活動を活性化する。 ○関係諸機関と連携し児童の課題や懸案事項を解決する。	○保護者等対象のアンケートで、「開かれた学校」に関し、9割以上が好意的に評価したか。	○方策は、全て実施することができた。特に、「即対応」に関して全教職員一致して取り組むことができた。 ○「開かれた学校」に関する3項目で、保護者93.8%から好意的評価を得た。 ○稲作体験、沼清掃、水生生物調査等で新たな連携体制を構築することができた。 ○歴代PTA会長の会が発足した。	B	●地域学校協働活動体制の確立が急がれる。PTAを中心としたこれまでの学校応援団の活動に加え、歴代PTA会長の会、谷津の里の皆様をはじめ地域との紐帯を深める。 ●特認校の指定を受ける前提として、「福田小で学ばせたい」と思わせる魅力ある学校づくりに邁進していく。
4	○勤怠ソフトにより、出勤退勤時間を把握している。 ●県費負担教職員の超過勤務時間が過労死ラインを超えている職員も存在する。 ●全教職員で知恵を出し合い、業務改善を推進するとともに職能の向上を図る。 ●教育の質の維持・向上を目指した「働き方改革」実現のため教職員の意識改革を進める。 ●保護者や地域の方へも取組みを理解していただく。	教育の質の向上を図る働き方改革	○「私達はこんな教師を目指します」を提示し教職員の理解を得る。 ○OJTを推進する。 ○授業改善、子供と向き合う時間の確保を優先した業務改善を推進する。 ○人材育成計画を作成し、実施する。 ○方針を明確に示し、教職員に具体的な施策提言を求める。 ○カエル会議を実施し、「働き方を変えてみよう」という機運を高める。 ○服務規律の徹底とマナーの向上を実現する。	○超過勤務時間を文部科学省上限ガイドライン(45h/m, 360h/y)以内に収めたか。 ○教育の質を維持向上にできたか。	○県費職員の超過勤務時間の平均値は、44h/m, 436h/yである。職員間のばらつきも大きく目標値にはほど遠い。 ○超過勤務時間を縮減し、家庭や自己啓発のための時間の確保につなげた職員も見られた。 ○目指す教職員像の共有、OJTの推進等で成果を得た。 ○学校課題研究の推進を通して、授業改善システムの確立に向けベクトルを揃えることができた。 ○服務規律、マナーの向上に成果を得た。	C	●超過勤務時間の上限ガイドラインを目標とした具体的な超過勤務時間縮減が課題である。前残業、優先順位などの意識改革に基づく成功例を示し、指導する。また、学校行事後直ちに次年度の計画を示す等、具体的な働き方改革例を示す。また、意識改革を目指したカエル会議を充実する。

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和4年 2月 4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
○少人数の良さを生かし、教師と児童の良好な関係が築けていることが、伸びにつながっている。 ○教職員の創意工夫のある授業やオンライン授業への取り組み等、評価できる。 ○9年間を見通した指導ができている。中学校で、その成果が見られる。 ○持久走で順位をつけない等、運動を楽しみ、運動が好きなお児童が増えている。 ○「ほめて伸ばす」等、自己肯定感を高める意識を教職員で共有し、児童に自信をもたせる指導をしており、今後も期待している。
○教職員と児童との信頼関係が構築されており、成果につながっている。 ○たて割り活動では、まるで兄弟のように、学年を越えてみんなの名前を覚えている。校長・教頭・教務主任をはじめ、担任以外の多くの教職員から声をかけられ、児童は自信につなげていて、「学校が楽しい」と感じられている。 ○目を見てあいさつをしたり、学校での様子を聞いたりするのは大人の役目でもある。生活習慣について学校でスローガンを提示して家庭と同一歩調で取り組む等、家庭や地域との連携も効果的だと考える。
○学校だより等を通して、学校は情報をよく発信している。 ○目標は概ね達成しており、評価はAが妥当ではないか。 ○学校応援団もよく機能しているが、PTAが中心で、地域の方が参加しづらい。資源回収に似え、地域の人材をさらに活用する体制をつくり、活動の充実や教職員の負担軽減を図れるとよい。 ○特認校に向け、「子供を福田小で学ばせたい」と思わせる魅力ある学校づくりに期待する。
○教職員の仕事量の多さは周知の事実であり、その努力にも感謝している。超過勤務は心配であり、負担軽減にPTAも協力したい。 ○教職員は一生懸命で、ストレスも多い。体調を崩さないか心配。また、教職員はそれぞれに事情を抱えている（育児、介護等）。共有して、助け合えるとうい。 ○取り組みばかり取り組むだけ、自分の首を絞めることになる。学校は、仕事を増やすぎないよう「割り切る」ことも必要。